

養護教諭養成における短期大学の看護系科目に対する学習内容の検討

—本学学生のアンケート調査より—

Examination of contents of study for nursing subjects at junior college of *Yogo* teacher training

—From our student's questionnaire survey—

伊藤 みどり*¹ 渡辺 美恵*¹ 矢野 由紀子*¹

愛知県みずほ大学短期大学部*¹

Midori ITOH*¹ Mie WATANABE*¹ Yukiko YANO*¹

Aichi Mizuho Junior College*¹

キーワード：養護教諭教育 看護系科目 学習内容

Key Word : *Yogo* teacher training curriculum of nursing content of study

I. はじめに

近年、児童・生徒を取り巻く健康課題は多様化・複雑化しており、養護教諭に期待される役割も拡大している。養護教諭は、養護をつかさどる教育職員¹⁾である。養護教諭の職務は、基本的には専門性を生かして児童・生徒の健康を保持増進するための活動に責任を持つことである。養護教諭の職務で対人サービス(救急処置・相談活動・連携・健康教育・実習生指導)に費やしている時間は全体の3割を超えている。費やしている時間割合は、相談活動に関わる時間が増加していることは明らかになっているが、「救急処置に費やす時間」が最も多い現状にある²⁾。

看護系科目は多岐にわたる養護教諭の職務のなかでも、心や体の健康に関する相談活動や日常の救急処置を実践するうえで、基本的な知識・技術の基盤となる科目である。さらに、養護教諭の専門性の向上を図るひとつとして医療・看護学的な知識と技術は、将来学校における相談活動や健康教育に結びつけ、適切な判断と実践力を養う基礎となる³⁾。下村の調査によると「養護教諭の約6割が今後の養護教諭養成において看護師免許の取得を教育した方がよいと考えていた⁴⁾」と示されている。

養護教諭の専門性を考えると教育職員としての能力を高めることはもちろんだが、医療・看護的知識を十分兼ね備えた、期待される養護教諭の育成が望まれる。

このことは、平成10年に改正された教育職員免許法において、養護に関する科目は、新しく増設された科目もある一方で履修単位数が減少した科目もある。

しかし、「看護学」に関する単位は10単位と変更がなかった。それに付け加え、養護教諭免許状に必要な養護

専門科目のなかで、看護学は一種免許状、二種免許状を問わず10単位の取得が必要とされていることから理解できる。

養護教諭養成機関である短期大学は大学と比較し、カリキュラムに余裕がない現状にある。だからこそ、効率的で効果的な学習内容を工夫することは喫緊の課題でもある。

野本らは「養護教諭の効率的かつ効果的な学習のためには、自らが学びたい内容、すなわち学習者の興味・関心を明確に、かつ的確に自覚する必要がある」と述べている⁵⁾。

看護系科目の学習内容も社会変化に対応し、学生の興味・関心、学ぶ気持ちを支えるような内容でなければならないと考えている。学生が何を学習したいと思っているのかを把握し、学生が主体的に学べる適切な学習計画の検討が必要である。そこで、本学生が看護系科目の講義を受講後、学習を深めたいと内容を明らかにし、その特徴を考察する。

また、学生が養護教諭になるために学習したいと思っている(感じている)内容を把握することは、本学における看護系科目の適切な学習内容を検討する資料とする。

II. 用語の定義

1. 看護系科目：本学短期大学部で開講している看護学Ⅰ・Ⅱ、救急処置A・B及び臨床実習とする。
2. 学習内容：学習者の興味・関心、もしくは学習者が目標達成に必要であると感じている知識・技術・態度とした。(舟島らの定義を参考⁶⁾)

Ⅲ. 研究方法

1. 研究対象者と方法

対象者は平成 29 年度養護実習・臨床実習報告会に参加した学生 33 名（1 年生 17 名、2 年生 16 名）を調査対象とした。

調査方法は、報告会終了後に書面にて研究趣旨及びアンケート調査協力を依頼し、承諾を得られた学生に実施した。また、アンケート調査は無記名で匿名性の確保を保証した。

2. データ分析方法

質問項目「あなたは看護学講義でどのような内容を学習したいですか」「あなたは救急処置講義でどのような内容を学習したいですか」の自由記述回答を Berelson, B の方法論（内容分析）を参考に、記録内容を内容要素ごとに記録単位にした。その後、データ化及びカテゴリーに分類した。

なお、分析の過程において、カテゴリー分類は信頼性と妥当性を確保するために共同研究者間で合意を得るまで繰り返し検討した。

Ⅳ. 結果

1. 対象者の基本属性

年齢は 18 歳～29 歳の範囲で平均 19.7 歳であった。19 歳～20 歳が 94% を占めていた。

看護系科目は対象者全員が履修しているが、1 年生は養護、臨床実習は未実習である。また、2 年生 16 名の養護実習内訳は、高等学校 14 名で約 9 割を占めていた。臨床実習も全員が履修している。（表 1）

表 1 対象者の属性

n=33			
項目	区分	人数	%
学年	1 年生	17	51.5
	2 年生	16	48.5
年齢	18 歳	3	9.1
	19 歳	16	48.5
	20 歳	13	39.4
	21 歳	1	3.0
	29 歳	1	3.0
養護実習 (2 年生)	小学校	1	6.3
	中学校	1	6.3
	高等学校	14	87.4
臨床実習 (2 年生)	実習終了	16	100.0

2. 看護系科目の講義内容の満足度

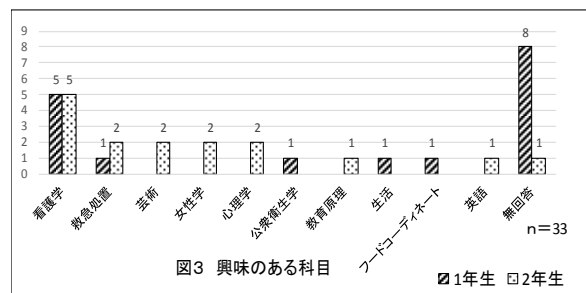
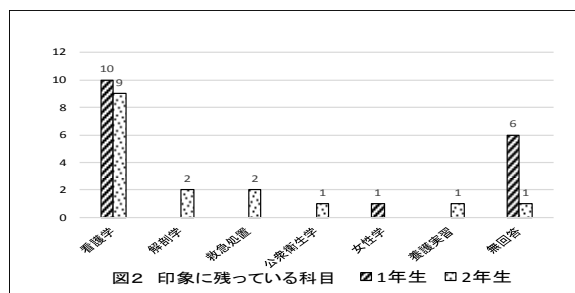
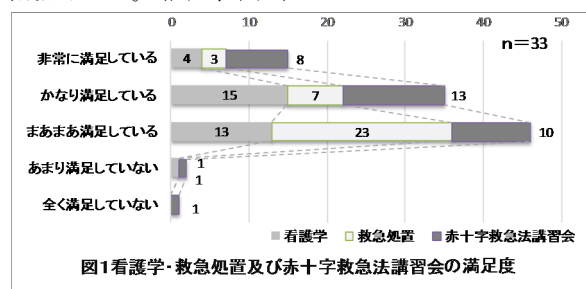
看護学、救急処置講義及び赤十字救急法講習会（講義外で実施）の中で「非常に満足している」と回答したのは赤十字救急法講習会が 8/33 名（24.2%）でも多かった。

「非常に満足している」「かなり満足している」「まあまあ満足している」を「満足している」に置き換えると看護学 32/33 名（96.9%）、救急処置 33 名（100%）、赤十字救急法講習会 31/33 名（93.92%）で満足度は高い。しかし、全体平均では「まあまあ満足している」と回答した者が 15.3 名（45%）を占めていた。（図 1）

3. 興味・印象に残っている科目

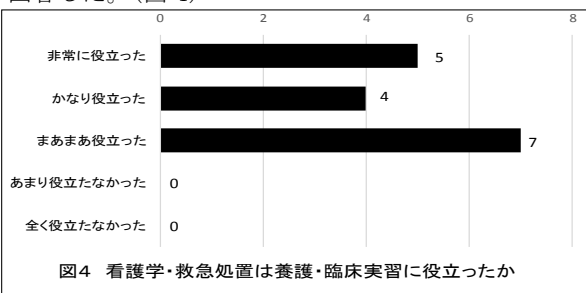
印象に残っている科目は 1 年・2 年生ともに「看護学」を第 1 選択にしている。ついで、「解剖学」と「救急処置」「公衆衛生学」等をあげており医療にかかわる科目であった。

興味のある科目は、「看護学」を 1 年・2 年生とも 10/33 名（30.3%）選択している。他の科目についてはばらつきがあった。だが、1 年生は印象に残っている科目、興味のある科目ともに無回答とした学生が 3 割強あった。（図 2、図 3）



2 年生のみの回答となるが、看護学・救急処置科目は、養護・臨床実習に役立っていると全員が回答している。

その中で「非常に役立った」と 5/16 名（31.2%）が回答した。（図 4）



4. 看護学・救急処置講義で学びたい学習内容

1) 看護学・救急処置の学習内容カテゴリー分類

看護学は33名中29名が回答し、65記録単位に分割できた。問いの答えになっていない1記録単位を除く、64記録単位を分析した。64記録単位は3コアカテゴリー、13カテゴリーと20サブカテゴリーに分類した。(表2)

救急処置は33名中30名が回答し、58記録単位に分割できた。問いの答えになっていない2記録単位を除く、56記録単位を分析した。56記録単位は2コアカテゴリー、7カテゴリーと12サブカテゴリーに分類した。(表3)。

以下の文中において、コアカテゴリー【 】サブカテゴリー『 』カテゴリー〈 〉で示す。

2) 看護学講義で学びたい学習内容

コアカテゴリーは【看護的支援(知識)】19、【看護的支援(技術)】33、【学習方法】12で構成された。その中では【看護的支援(技術)】データ数が最も多く抽出された。

(1) 【看護的支援(知識)】

『小児期の特性』『精神的援助』『養護教諭の観』の3カテゴリーに分類した。その中でも『小児期の特性』15がもっともデータ数が多かった。サブカテゴリーで見ると〈急性・慢性疾患の理解〉7、〈子どもに多い疾患と支援〉5で、疾患等の知識や小児期の特徴に関連したデータ数が12/15(80%)と大半を占めていた。

『養護教諭の観』3の記録単位には、教員の現役時代に経験したエピソードを講義内で聞きたいという記述がみられた。

(2) 【看護的支援(技術)】

『コミュニケーション技術』『ヘルスアセスメントの技術』『健康の保持増進支援技術』『感染予防技術』等の9カテゴリーに分類した。『ヘルスアセスメントの技術』10が最も多く、その内訳は〈ヘルスアセスメントの基本〉4〈システムアセスメント〉6だった。具体的な記録単位は、バイタルサインや初期対応方法に関連した内容であった。

(3) 【学習方法】

『実践的な学習法』1カテゴリーに分類した。サブカテゴリーは〈実践的な学び〉6、〈反復学習の機会〉5、〈学習態度〉1であった。記録単位は、身につく実習や実習に生かせるような内容と記述していた。さらに、それらのことを反復学習したい、もう少し実習したいという記述が11/12(91.6%)を占めた。

3) 救急処置講義で学びたい学習内容

(1) 救急処置講義の学習内容

コアカテゴリーは【看護的支援(技術)】43、【学習方法】13から構成された。『創傷管理技術』20、次に

『実践的な学習法』13『救命救急処置技術』7、『ヘルスアセスメント技術』7の順に多かった。

(2) 【看護的支援(技術)】

『救命救急処置技術』7、『創傷管理技術』20、『コミュニケーション技術』5、『ヘルスアセスメント技術』7等の6カテゴリーに分類した。サブカテゴリーは〈皮膚創傷の管理〉13/17(76.5%)を占めていた。記録単位が多いのはケガの手当て方法だった。さらに、ケガの手当ての方法は2年生の10/17(58.8%)半数以上が記述していた。その他のサブカテゴリーで多かったのは、〈救急処置〉5〈コミュニケーション〉5、〈ヘルスアセスメントの基本〉5が同数だった。

また、〈コミュニケーション〉5は2年生のみが記述しており、お腹や頭が痛いと保健室に来室する生徒との対応、症状や部位を聞いた上での対応方法など具体的な例をあげた記述がなされていた。

反対に、1年生のみが記述していたサブカテゴリーは、〈トリアージ〉2、〈心のケア〉3であった。

(3) 【学習方法】

『実践的な学習法』の1カテゴリー、〈実践的な学び〉8と「反復学習の機会」5の2つのサブカテゴリーに分類された。〈実践的な学び〉の主な記録単位は、学校でよくおこるけがの処置方法にしぼった実習や事例を取り上げた演習、大けがをしたときのロールプレイなどの記述が多かった。そして、〈反復学習の機会〉が必要という記述があがっていた。

V. 考察

1. 看護系科目の関心

印象・興味のある科目は1年生、2年生ともに「看護学」と記述している。この結果は、現職養護教諭が職業活動上の目標達成に必要な学習内容は「あらゆるこどもの健康保持・増進の基盤となる看護学・心理学などの知識・技術」、「救急処置に必要な知識・技術」と上位3つの内2つをあげている⁷⁾。このことから養護教諭を目指す学生にとっても「看護学」や「救急処置」の講義に関心を示すのは理解できる。

しかし、1年生はこの質問項目に対して、無回答者が8/17名(47.1%)いた。1年生は、養護・臨床実習が未経験で実感がないこと、または資格取得や学習すること自体に関心がないのではないかと推察した。

臨床実習は1年生後期の2月後半から始まり、養護実習は2年生前期の4月～6月で行う。この実習開始までにいかに動機づけをして、やる気アップにつながる継続的な関わりが大切であると考えられる。実習は、学内の学びを發揮する場であり、養護教諭に関する自己の適性を理解する場でもある⁸⁾。学生が実習前に学んでおいたらよかったと思う項目は「救急処置」、次

表2 あなたは看護学の講義でどのような内容を学習したいですか

回答者数 29名/33名 記録単位…64データ (総データ数 65 問いの答えになっていないデータ数1)

看護的支援 (知識)

カテゴリ (データ数)	サブカテゴリ (データ数)	記録単位	学年別データ数	
			1年生	2年生
小児期の特性 (15)	急性・慢性疾患の理解 (7)	病気やケガの種類	3	4
		この病気はどのようなものか		
		病気のこと (2)		
		病気の種類		
		川崎病など心臓病や脈不全など運動制限のある病気		
	こどもに多い疾患と支援 (5)	子どもに関わること	4	1
		児童生徒がよくなる傷病、疾病		
		こどものアレルギーや喘息についての学習		
		保健室来室してきた生徒の中でどのような症状を訴えてくるのか知っておきたい		
		学校やこどもにかかりやすい感染症の仕組み		
	流行している病気の種類と動向 (3)	今どのような疾患が多いか	3	0
		アレルギーの児童生徒が増えているのでアレルギーについて		
春から初夏こどもの病気				
精神的援助技術 (1)	心のケア (1)	心理的に悩んでいること	1	0
養護教諭の観 (3)	養護の専門性 (3)	基本的な看護学の知識や技術	0	3
		養護教諭としての職業観		
		先生方の現役時代に経験した話 (毎時間1エピソード)		

看護的支援 (技術)

カテゴリ (データ数)	サブカテゴリ (データ数)	記録単位	学年別データ数	
			1年生	2年生
コミュニケーション技術 (3)	コミュニケーション (3)	大勢の人前で話ができる	1	2
		患者さんとのコミュニケーション		
		保護者や家族とどのように接していくか		
ヘルスアセスメントの技術 (10)	ヘルスアセスメントの基本 (4)	技術ではなく対応の仕方	4	0
		様々な理由での対応の仕方		
		頭部のケガしただけでなく、そこからどのような背景が見えるか考えながらの対応		
		生徒の異変		
	システムアセスメント (6)	バイタルサイン (5)	1	5
		バイタルサインを行う上で不整脈がどのようなものか		
健康の保持増進支援技術 (1)	健康の保持増進支援 (1)	禁煙	1	0
感染予防技術 (7)	感染防止対策 (6)	嘔吐物の処理仕方 (4)	0	6
		インフルエンザ対策		
		ワクチンの種類 (生ワクチン)		
	洗浄・消毒・滅菌の適切な選択 (1)	消毒の仕方 (使用器具)	0	1
環境調整技術 (3)	ベッドメイキング (3)	ベッドメイキング (3)	1	2
活動・休息援助技術 (3)	移動・移送 (2)	車いすの使い方 (2)	0	2
		体位・体位変換 (1)	体位変換の仕方	0
救命救急処置技術 (4)	救命救急処置 (4)	緊急時の時についてもっと学習	2	2
		緊急時の赤ちゃんの対応と判断		
		応急処置の実践		
		病院まで引き継ぐまでの応急処置		
創傷管理技術 (1)	包帯法 (1)	包帯の巻き方	0	1
医療ケア技術 (1)	特別支援におけるケア (1)	体の不自由な人たちの介助の仕方	0	1

学習方法

カテゴリ (データ数)	サブカテゴリ (データ数)	記録単位	学年別データ数	
			1年生	2年生
実践的な学習法 (12)	実践的な学び (6)	身につく実習	3	3
		嘔吐物の処置仕方を体で覚えるくらい実習		
		薬の塗り方や症状をことばだけでなく写真や実践するところ		
		実際の現場での対応の方法が全く分からないので細かい所まで対応、処置方法		
		感染症など実習に必要なこと		
		実践に生かせるような内容		
	反復学習の機会 (5)	止血方法、体位、冷罨法などもう少し実習したい	3	2
		実習直前に復習としてミニテスト		
		バイタルサインを復習したい、		
		ベッドメイキングを復習したい		
学習態度 (1)	積極的に取り組む姿勢	1	0	

記録単位の内容に類似性があるものはまとめ () 内にその数を記載した

表3 あなたは救急処置の講義でどのような内容を学習したいですか

回答者数 30名/33名 記録単位…56データ (総データ数58 問いの答えになっていないデータ数2)

看護的支援(技術)

カテゴリー(データ数)	サブカテゴリー(データ数)	記録単位	学年別データ数	
			1年生	2年生
救命救急処置技術(7)	救命救急処置(5)	救急処置	3	2
		救急処置		
		AEDの使い方		
		緊急時の対応		
		止血法など適切なやり方		
	トリアージ(2)	優先順位の見極め方	2	0
児童生徒に対しての優先順位を学びたい				
創傷管理技術(20)	皮膚・創傷の管理(16)	いろいろなケガの手当て方法(8)	6	10
		骨折などの処置と大切なこと		
		けがや症状の対応の方法(3)		
		様々な疾病の処置		
		迅速な手当てをするためにはどう工夫するか		
		ケガの種類		
	RICE(ライス)処置	1	3	
	包帯法(4)			包帯法
				テーピングの巻き方
				テーピングの巻き方など
テーピングの巻き方				
コミュニケーション技術(5)	コミュニケーション(5)	生徒の接し方	0	5
		お腹が痛い、頭が痛いという保健室来室する生徒対応		
		生徒が来室してきたときにどう対応するか		
		症状や部位などを聞いた上での対応		
		コミュニケーション		
ヘルスアセスメント技術(7)	ヘルスアセスメントの基本(5)	症状や部位などを聞いた上で判断	2	3
		その時期に応じた、対応をできるようにする		
		腹が痛い、頭が痛いというときの実践		
		来室した生徒の対応処置の仕方		
	系統系アセスメント(1)	バイタルサインなどの実習に必要な	1	0
		身体各部の測定(1)	身体測定の正しい測定法	0
精神的援助技術(3)	心のケア(3)	身体的要因からくる心理的要因についても対応	3	0
		カウンセリング技術について		
		心のケアについて		
舌痛の緩和・安楽保持の技術(1)	体温調整(1)	冷罨法のやり方	1	0

学習方法

カテゴリー(データ数)	サブカテゴリー(データ数)	記録単位	学年別データ数	
			1年生	2年生
実践的な学習法(13)	実践的な学び(8)	学校でよくおこるけがの処置方法にしぼって実習	3	5
		実際の発見から対応まで行うなど実習		
		事例を取り上げた演習		
		子ども、高齢者との関わり、特別支援学校など色々な体験		
		実習をしながら学びたい		
		健康診断のロールプレイ		
		大けが等が起きたときの行動等を授業でロールプレイング		
	実践で使える			
	反復学習の機会(5)	包帯の巻き方に自信がないので何度でも練習できる機会	3	2
		もっと実践できる体験		
救急処置の実習をもっと多く学びたかった				
救急処置を忘れないようにたまたま復習する時間があると心強いです	忘れてしまうため授業の中でやりたい			

記録単位の内容に類似性があるものはまとめ()内にその数を記載した

に「カウンセリング」と報告されている⁹⁾。本調査でも同様であった。これらの学習内容は実習前の準備の段階から計画的に再学習できる機会を設ける必要があると示唆している。事前学習の内容や方法は学生が自信を持ち達成感を得る「カギ」であり、自己成長が実感できることにつながると考える。

2. 看護系科目に期待する学習内容

看護学では子どもに関連した学習内容『小児期の特徴』が多くみられた。これは、小児期の特徴や疾患に対する知識を深めたい、『コミュニケーション技術』を身につけたいという学生の思いである。2年生からは「腹痛や頭痛等を訴えた子どもが保健室に来室した時の対応」「無口な子との関わり方」等の不安が記述されていた。子どもの理解が十分であったと気づく場面が多かったのではないかと。実習の中で子どもの理解と適切な対応が大切であると実感していた。学生は子どもに近い存在でありたいと思いつつもファーストタッチに必要なコミュニケーション技術やアセスメント技術の未熟さに学習の必要性を感じ、自分としての必要な課題を認識できた推察できる。

【看護的支援(技術)】では『創傷管理技術』『ヘルスアセスメント技術』のデータが多かった。この結果は、大学での学習の必要性の高い項目「バイタルサイン測定」「止血法」「創傷処置と看護」¹⁰⁾とほぼ合致しており、学習ニーズが高いと理解できた。「救急処置」(膚・創傷の管理)の要望が多かったのは、養護実習等で大半の学生が救急処置を経験しているが達成度が低い項目である¹¹⁾ことから伺える。

本学では1年生の夏季休暇中に講義外で、赤十字救急講習会の受講を推奨している。講習後は「この処置や技術ができるようになったと実感はあるが、学校現場では即応的に対応しなければならない。そのため、専門的知識不足に不安を感じている養護教諭が多い。「救急処置」に自信のない養護教諭は約5人に1人だという¹²⁾それに付け加え、新卒の養護教諭は大規模校を除き、一人職種であり、同僚に同業者が存在しない一人職場でもある。そのため、教員も卒業直後に困らないだけの基礎的な実践能力をつけさせたいと強く思っている。だが、すべての学習内容を網羅できるわけではない。より実践的な学習内容を精選して計画する必要がある。

3. 効果的な学習方法

半数以上の学生は、看護学、救急処置講義ともに『実践的な学び』『反復学習の機会』を記述し、実習や演習に重点を置いている。従って、基本的な看護技術を一人でできるようになるまでやりたいという気持ち強い。また、養護教諭の資格を取得するという目的があるので、知的好奇心や自己決定感がある程

度にもっていると考える。吉崎は「学習意欲に影響する要因には、知的好奇心、効力感(有能感)、自己決定感 有用性(必要感)がある¹³⁾」と示している。

学生の学習意欲を引き出すためには、何度でも納得のいくまで練習できる時間と学習環境を確保し、提供できるようにしていきたい。また、「補講」として教員の指導時間の検討、先輩が後輩を導く相互学習の体制を取ることで、ともに学ぶ学習意欲を得るのではないだろうか。そのうえで、空き時間を利用した自主学習の活用を指導していくべきと考える。

結論

本学学生が望む学習内容は以下の3つであった。

1. 子ども理解に関連した知識・技術の学習内容
2. 学生が主体的に学べる、参加型演習や実習を多く取り入れた授業形態
3. 看護技術が、一人でできるようになるまで反復練習する機会を設けてほしい

引用文献

- 1) 文部科学省：保健体育審議会答申「養護教諭の新たな役割」1997
- 2) 山田小夜子,橋本廣子：養護教諭の職務の現状に関する研究, 岐阜医療科学大学紀要(3) P77-81, 2009
- 3) 松嶋紀子他：教育学部養護教諭養成の看護系授業・臨床実習に対する卒業生のニーズ, 日本養護教諭教育学会誌, 3(1), P87-95, 2000
- 4) 下村美佳子：養護教諭の救急処置に関する調査研究 高知女子大学看護学会誌, 31(1) P56-64, 2006
- 5) 野本百合子,舟島なおみ：現職養護教諭が知覚する学習ニーズの特徴, 愛媛県立医療技術大学紀要,10(1) P29-34,2013
- 6) 舟島なおみ編：院内教育プログラムの立案・実施・評価「日本型看護職者キャリア・ディベロップメント支援システム」の活用, 42, 2007
- 7) 前掲5)
- 8) 大谷尚子, 中桐佐智子：改訂「養護実習ハンドブック」P194-197,東山書房, 2015
- 9) 中桐佐智子他：養護実習における実習内容と学生の達成感の検討, 吉備国際大学 保健科学部紀要, 10, P1-10, 2005
- 10) 前掲3)
- 11) 前掲10)
- 12) 池島千恵子他：養護教諭の役割における満足度と自信度に関する研究, 高知学園短期大学, 42, P27-41, 2012
- 13) 吉崎静夫：事例から学ぶ活用型学力が育つ授業デザイン, ぎょうせい, 2000